

児童一人ひとりが自分の成長に気付くと共に、互いに支え合い、

高め合う学級集団作りをめざして

—第6学年の学級でのとりくみを通して—

1. 設定理由

学習指導要領の改訂にあたり、キーワードとなっていることは「主体的・対話的で深い学び」である。それらは、各教科の中だけでなく、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事など学校生活全体で経験させていかなくてはいけない。学校は、まさに社会の縮図であり、児童にとって一番身近な社会である。そして、学校生活そのものを教育の対象としているのが特別活動である。それらの体験や経験がおとなになっても忘れられない思い出となり、今後の生活の基盤となっていくのである。

そこで、学級での活動を人と人との関わり合う最も身近で最適な場にしたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

様々な行事を通してリーダー経験をすることで、児童は自らの成長に気付くと共に、支え合える集団となるだろう。

児童どうしで学級の課題を話し合う機会を数多く経験することで、互いに高め合える集団作りができるだろう。

3. 研究内容

- | | | |
|---|---------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 学級通信 | <input type="checkbox"/> 2 交換日記 | <input type="checkbox"/> 3 飯嶋ミッショントーク |
| <input type="checkbox"/> 4 月末の生活ふり返りシート | <input type="checkbox"/> 5 学級会 | <input type="checkbox"/> 6 サイコロトーク |
| <input type="checkbox"/> 7 群読 暗誦 | | |

4. 結論

これまでとりくんできた実践は主に教員が主体となって児童に与えてきたものが多い。それらは今後、児童が主体的に活動していくために必要な視点だったり、方向性を示すための材料となったりしている。現在は教員対児童の関わりが多いが、主題に迫っていくためには児童対児童の関わりが多くなっていかなくてはいけない。

そこで、今後はこれまでの実践の成果や課題を土台とし、児童と児童が主体的に関わっていくことを通して主題に迫っていくよう指導していく。そのために、今後の研究に向けての仮説を立てて実践していくこととなった。

印旛支部
佐倉市立根郷小学校
飯嶋直人
佐倉市立間野台小学校
関佳奈美

研究主題

児童一人ひとりが自分の成長に気付くと共に、互いに支え合い、
高め合う学級集団作りをめざして
—第6学年の学級でのとりくみを通して—

1. 主題設定の理由

(1) はじめに

学習指導要領の改訂にあたり、キーワードとなっていることは「主体的・対話的で深い学び」である。それらは、各教科の中だけでなく、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事など学校生活全体で経験させていかなくてはいけない。学校は、まさに社会の縮図であり、児童にとって一番身近な社会である。そして、学校生活そのものを教育の対象としているのが特別活動である。それらの体験や経験がおとなになんでも忘れられない思い出となり、今後の生活の基盤となっていくのである。特別活動における「主体的な学び」とは、学校や学級の実態、自己の現状に則して自ら課題を見出し、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、生活をより良くしようとしていくことである。「対話的な学び」とは、生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定をしたりする話し合いの中で様々な意見に触れ、考えを広げたり、多面的・多角的に考えたりすることである。「深い学び」とは、集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせながら、問題の発見、課題の設定からふり返りまでの一連の活動を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び自己の問題の解決に活用していくことである。これらの「学び」を通して、人間関係形成・社会参画・自己実現の資質・能力を育成していかなくてはいけない。

特に、学級活動は、よりよい生活を目指して一つの課題について話し合ったり、行事の際には目標をもってみんなで取り組んで行ったりと、人と人が関わり合う最も身近で最適な場であると言える。しかし、初めから質の高い話し合いが出来るわけではなく、良好な人間関係が必要不可欠である。そのためには、子どもどうしの信頼関係作りが最重要課題であると考えられる。

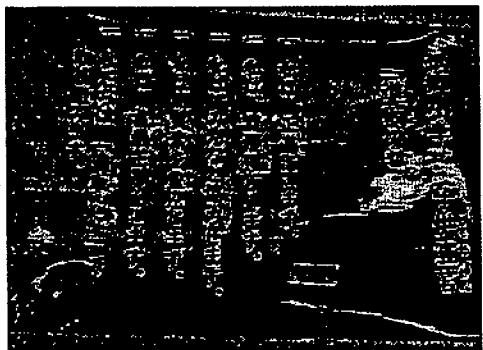
(2) 学校の実態

本校は1872年（明治5年）に石川村小学校として創立し、1897年（昭和22年）に根郷小学校と改称された、歴史と伝統のある学校である。保護者子3世代で根郷小に通っているという児童も少なくない。地域の方は本校の教育活動に大変協力的であり、毎日の見回り活動、学習支援、学校環境整備など様々な場面で地域人材を活用している。また、本校の学区はとても広く、バス通学をする児童もいる。そして、安全確保のため毎日集団下校を行っている。その際にも、下校時パトロールとして数多くの地域の方が児童を見守ってくれている。さらに、小中連携の生徒指導会議や、地域の方も交えた安全確保対策会議なども定期的に行われ、学校の情報を積極的に発信し、また地域からの情報も受け止めている。その

ように、地域とのつながりが深い学校であると考えられる。

本校には、「根郷小子ども宣言」という、子どもたちがめざすべき理想の価値があり、児童はそれを目指し日々努力している。内容は以下の通りである。

- 一つ、私は正直にします
- 一つ、私は我慢強くします
- 一つ、私はみんなと協力します
- 一つ、私は質素を重んじます
- 一つ、私は礼儀正しくします
- 一つ、私たちは進取の心で取り組みます



これを全校児童が暗誦し、全ての学校生活の基盤としている。

また、教員はこれらを生活指導の軸として、児童の指導を行う際にはこの6つの項目に立ち返るようにしている。

そして、校長は校長通信や毎月初めの全校集会、校内放送を通して学校運営や指導の方針について職員や児童に適宜発信している。また、生徒指導案件には校長自ら児童の指導とフォローを行い、その後の経過観察も積極的に行っている。そのリーダーシップのもと、学年指導方針を話し合い、学級経営を行うことができている。組織だって学級指導・生徒指導を行うことで、職員は安心して職務に専念することができる。

(3) 学級の実態

本学級は、6年生28名（男子15名、女子13名）で構成されている。毎年学級編成があるため、新年度は友だち関係も一新された状態である。

本学級の児童は穏やかで優しく、素直な児童が多い。日頃から学校や学級の約束を守ろうとする意識が高く、指導をしたときには素直に聞き入れ、すぐに改善しようとしている。また、教員の指示をしっかりと聞き、「〇〇しよう。」と投げかけたことに対して一生懸命取り組んでくれる。特に調べ学習や、ノートには大変意欲的で、とても集中してとりくむことができる。集団生活の中では、自分の思いを通そうとするのではなく、譲り合いながら生活している。また、困っている友だちがいると、側に寄り添って悩みを聞いてあげたり、解決方法を一緒に考えてあげたりしている。

その反面、力強さや積極性、自主性に欠ける。朝の挨拶や日頃の返事、歌声などが弱々しい。大きな声を出すことや大きな口を開けて歌うことに対して恥ずかしいと感じているようである。また、授業中の発言が少なかったり、行事の代表等への立候補が少なかったりする。また、教員から声をかけないと係の活動がおろそかになってしまったり、約束が守れなかつたりすることがある。教員の指示がないと次の行動に移せないということもある。

友だち関係ではグループ化が見られる。周りを拒絶するわけではないが、男女とも特定の友だちと一緒にいてそのグループが行動原理となっている。また、休み時間は室内で過ごす児童が多く、おしゃべりや読書などを好んでいる。

本学級の児童には最高学年として、学校のリーダーとしての自覚と責任をもって活動してほしいと考えている。しかし、非常に消極的で指示をされるのを待っているような受け身状態の児童が多い。上記に記載した「根郷小子ども宣言」の6つ目の項目にある「進取の心で

とりくむ」というのは、正に本学級の児童が身に付けるべき価値である。昨年度の12月に「5・6年生の引継ぎの会」が行われ、旧6年生より学校のリーダーになることの意味や、心掛けについて話を受けている。そして、1月からは学校のリーダーと活動する機会が少しずつ増えて行った。そのおかげで、新年度が始まった時は児童一人ひとりが学校のリーダーとしての自覚や責任感など意識的な部分ではそれなりに身に付いてはいたが、それを具体的な行動として積極的に表していくようになってほしい。

2. 実践内容

研究主題にあるような学級作りのために、以下の3点の児童の姿を目指している。

①何事にも本気でとりくむ子

発達段階の特徴として本気でとりくむことに恥ずかしさを感じていたり、みんなでひとつのことを行うことについて冷めた態度をとってしまったりすることが考えられる。しかし、一つ一つの活動を本気でとりくむことで経験する成功や失敗を通して、児童は自分の成長に気付いていくだろう。

②友だちどうし認め合える子

児童にとって学級は安全に・安心して生活ができる居場所であるべきである。そのためには、友だちどうしが互いの良さに気づき、認め合えるような暖かい雰囲気は欠かせない。そんな環境ならば、児童は支え合って生活することができるだろう。

③自ら気付き、考え、行動できる子

児童にとっては教員だけが主体になるのではなく、自分たちで学級の問題や目標に気付き、それを課題として捉え、みんなで解決に向けて考え方行動していくような児童が主体となる集団が望ましい。そのような集団になることで、児童は互いに高め合うことができるだろう。

これらの児童の姿を目指し、本学級では以下のことを取り組んでいる。また、それぞれのとりくみの内容と目的、エピソード、成果(○)と課題(●)及び改善点(☆)をまとめた。

1 学級通信

内容：タイトル「円☆陣」

つらいことやきついこと、苦しいことにぶつかったとき、一人で悩まないでみんなで円陣を組んで協力し乗り越えて行って欲しいという願いを込めた。また、「えん」と読む漢字には「縁」や「援」があり、どちらもとても良い意味のある漢字である。6年2組として出会った縁を大切にして、互いに応援し合い、円陣を組んで取り組んでいく、そんな学級になって欲しい。という願いを込めている。また、子どもたちは学校を動かすエンジンであるという意味も込めている。

目的：

- ①日頃の学級の出来事や、児童の様子を保護者に伝え理解・協力を求める。
- ②学校と家庭の信頼関係を気付いていく。
- ③友だちのよいところや頑張っていることを紹介し、友だちどうしが認め合えるようにする。

エピソード：

第1号では担任の1年間の学級経営の想いを記載した。また、保護者にも「こんな子ども達になって欲しい。」「こんな学級であって欲しい。」という願いや、「学級通信でこんなことを取り上げて欲しい。」という要望についてアンケートをお願いした。そうしたところ、多くの保護者から回答があり（写真①）、学級経営方針を決める手立てとなつた。

写真①

<p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>飯島先生、一年間お世話になりました。小学校生活最後の一年間を振り返り、下校までの見守りやお手伝いに、家庭生活を送るなど、様々な面で、ありがとうございました。特に自分らしくなれる事が、苦手な点はあって、積極的に行動していく所がとても見えてます。</p> <p>学級通信は、児童個々に合わせて、お家と会う休み時間も選ぶところ、学校の事がわからず、身はアレルギー、耳も上りて寝つけない等あります。一年間、ありがとうございました。</p> <p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>小学校生活最後のクラスとなりました。学校に行きやすくなるよう明るく、楽しく、丁寧な対応をしてもらいました。</p> <p>様々なクラスにして頂きました。</p> <p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>学校の様子を教えて頂き、日々のことがとても嬉しいです。毎日元気で下さい。おまくお腹へいります。</p>	<p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>小学校生活最後のクラス。6-2のみんなが仲良く取り合ひながら過ごしていました。 子供同士が友達のいい所を見たり、他の会話をうながす等、毎日楽しかっています！よろしくお腹へいります。②</p>	<p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>明るく、明るく相手を見いやれる学校になります。</p>	<p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>学校楽しい事と児童不思議なクラスだと親として一番うれしい事と感じます。又子供同士がお互いを尊重し合えるようにしてほしいですね。一年間、宜いお腹へいります。</p>	<p>【保護者の皆様へのアンケート】 お名前 [REDACTED]</p> <p>子供達には最も印象的で子供らしい見えたな。7年生です。小学校生活、楽しかったです。いい思い出になりました。今まで、1年間、お世話になりました。</p>
---	--	--	--	--

また、行事の後の感想や学校のために活躍した児童を紹介することで、児童どうしが互いの頑張りや想いに気付くようにしている。

（資料1）

成果と課題及び改善点：

○行事のお知らせお願いだけでなく、担任の指導方針や児童の学校での活動の様子、写真などを載せている。学級通信を発行することで、保護者が普段見ることのできない学校での児童の様子を知らせることができている。また、保護者からの意見や感想なども積極的に取り入れることで、家庭との連携を図ることができている。また、学級通信が保護者と児童の会話にきっかけにもなっているので、教員と児童と保護者のつながりを築くことができている。

○児童も保護者も、学級通信の発行を楽しみにしてくれている。

○友だちどうしの認め合いにつながっている。

2 交換日記

内容：

隙間時間や帰りの会の数分を活用して一日の学校生活の感想や、友だちとの出来事、困っていることなどを書かせている。必ず一言でもコメントを入れ、翌日朝に返却している。また、行事の後に書いた日記などは、学級通信に載せて紹介している。

目的：

- ①子どもたちとのコミュニケーション手段とする。
- ②教育相談、生徒指導に関する事案を早期発見・解決する。
- ③教員と児童の信頼関係づくり。

エピソード：

4月に入ってすぐに、入学式、1年生のお手伝い、委員会活動など学校のリーダーとしての活動する行事が行われた。それらの活動の際には担任を始め多くの教員から叱咤激励を受けてきた。児童にとって多忙な1ヶ月だったが、とても成長できたことが児童の日記から感じ取れた。(資料2①、②)

また、何でもないような内容でも日々の日記のやり取りを楽しみにしている児童もいる。

(資料2③)

成果と課題及び改善点：

○毎日全員と会話をすることは難しいが、日記を通して児童の色々な気持ちを感じることができている。中に、普段とてもおとなしくコミュニケーションがとりづらいが、日記だとたくさん書くことができるという児童もいる。

○相談事を書き、生徒指導事案の早期発見につながったことがある。

●テーマ等を設けていないので、ただの「〇〇が楽しかった。」などの簡単なふり返りだったり、一言だけの内容になってしまったりしがちである。

☆日記を書く時にテーマを与えたり、条件を与えたりしてとりくみ方を少しずつ変化させていく。

3 飯嶋ミッション

内容：

短期(1日の中)～長期(1ヶ月間)での生活のめあてを3段階のレベルに分け与える。達成できたら教室に掲示し、いつでもふり返られるようにしている。(資料3①)また、達成した際にはレベルに合わせてビー玉を貯金していく(資料3②)、約30個貯まったら「直人ンピック」と題した学級レク大会を行う。「ぴったり10秒チャレンジ」というものを行った。(資料3③)

- ・達成できたミッションの一部（星の数は難易度）
 - 検診中一言もしやべらない（☆） 3分前着席（☆☆）
 - 委員会の委員長に10人以上立候補する。（☆☆）
 - 委員長に4人以上なる。（☆☆☆） 組体操では練習から本番までケガをしない。（☆☆☆）
- ・達成できていないミッション
 - 1日に1回手を挙げて発表する（☆☆） 給食を1週間連続で完食して返す（☆☆）
 - 先生やお客様には必ず自分から挨拶をする（☆☆） クラスの全員と話をする（☆☆）

目的：

- ①日常生活でのめあてをもたせる。
- ②頑張った後には楽しい出来事を与えることで、生活のモチベーションを高めさせる。

エピソード1：

達成ミッションを見ていた児童は「1回達成したミッションなのに、最近出来ていないことがあります。もう一度ミッションにしてください。」と相談にきたことがあった。そこで、掲示物を取り外し、それを児童に見せて話し合わせた。そこから、児童は一度出来たら満足するのではなく、より高いレベルを目指していくという意識に変わった。

エピソード2：

運動会当日には「表現運動で飯嶋先生を泣かせる」というスペシャルミッションをみんなで作った。ミッションを達成したいというのがきっかけとなり、本番ではみんなが一つになり大成功を喜び合った。

成果と課題及び改善点：

- 1日の生活の中での具体的なめあてをつかむことができるので、全員が達成しやすい。
 - ごほうびのレクを楽しみにしている児童も多い。できなかったら罰ではなく、できたからごほうびがあるという前向きの条件の方が、みんなで達成しようとする気持ちを高められる。
 - 一つ一つのミッションが単発に終わってしまい、継続できていない。
 - 基本的な生活に関わるミッションは達成できているが、積極性に関わるミッションは達成率が悪い。
 - 全員できなくてはいけないのか、8割以上ができるれば良しとするのか基準が明確になっていない。
- ☆自主性に関わるミッションを多く与えていく。
☆細かく刻んだめあてではなく、「修学旅行を成功させよう」という大きなテーマの中で、ミッションを与えとりくませていくといった方法にしていく。また、学級会で児童にミッションを考えさせて、とりくませる。

④月末の生活振り返りシート

内容：

毎月月末に、学校生活に関する25項目について自己評価をさせ合計点（100点）を出す。全員分の平均点をもとにそこから課題を見出し、指導方針を決定していく。（資料4①、②）また、結果を学級通信で配信し、保護者とも共有を図る。点数が低いものは学級会で議題とし、解決策や改善案について話し合っている。

4月は新年度が始まった緊張感もあり、学校生活へのモチベーションも高くどの項目とも高い点数となっていた。5月は運動会の練習や係の活動を通し、積極性や自主性に関する項目の得点が上がった。（項目9、18、22、23）しかしその反面、多忙さに追われて基本的な生活習慣に関しては下がってしまっている。（項目1、2、7、13）6月は大きな行事が終わり生活のモチベーションを保てなくなってしまったことがあり、最も低い平均点となってしまった。それを受け7月は、夏休み前のまとめということで基本的な生活の指導に立ち返ることで、多少ではあるが改善することができた。

目的：

- ①月ごとの数値の変動をみることで、頑張ったことや課題について、自ら気付かせる。
- ②学級の指導方針を考える材料にする。

エピソード：

毎月項目5の得点が最も低くなっているので、学級会の議題にした。話し合いを進める中で、積極的に挙手ができる理由として、「間違えるのが嫌だ」「回りがどう反応するかわからなくて不安」ということが挙げられた。そして、結果として「自信がある人はパー、自信はないけどわかる人はチョキ、全然わからない人はグーというようにハンドサインを変えて挙手をする」というA案と「聞いている人はきちんと反応する」というB案の2つの解決案にまとまった。1週間のとりくみの様子を振り返って見ると、A案ではもともと挙げていなかつた人はグーばかりで結局発表していないという状況が見られたので中止となった。B案の方は8割以上の児童が自分の中で心掛けが変わったと判断していた。私も大きな変化はないが、多少なりとも良い方に変化していたと感じたので、引き続き取り組んでいくこととなった。

成果と課題及び改善点：

- 点数化しているので、何が高くて何が低いのか見て判断しやすい。また、前回の分を見ながら自己評価をしていくので、前回と比べてどう変化したかという視点で振り返ることができる。
- 担任が感じていることと、児童の自己評価にギャップがある。
- ☆概ねできていることが多いので、項目を変えていく必要がある。基本的な生活習慣についての項目が多いので、めざす児童の姿と関わりのある項目を増やしていく。
- ☆内容項目にまとまりがない。「時間」「廊下歩行」「授業態度」などというように整理すると、より実態がつかみやすくなる。

5 学級会

内容：

毎月の生活目標に対する学級でのとりくみを話し合う。また、教室に「意見箱」を設置し子どもたちから話し合いで解決したいことや、生活上の課題を書かせる。(資料5①、②)そこに書かれたことについて、学級活動の時間に学級委員を中心にして、改善策や助言等を話し合う。また1週間でそのとりくみについて効果や改善点があったかなどの振り返りを行う。話し合いの様子は書記係が記録していく。(資料5③、④)

目的：

- ①子どもたちが自ら気付き、話し合い、考え、行動する経験をさせる。
- ②学級の課題を自分のこととして考え、全員で協力する姿勢を養う。
- ③多様な考え方や意見を認められるようにする。

エピソード1：

本学級では、運動会の応援団や選手宣誓の役目などへの立候補がとても少なく積極性に欠ける部分があった。それは学級の課題であると感じたので「小学校生活最後の運動会をどんなものにしたいか。」について話し合いをさせた。児童からは「後悔したくない」「一人ひとりが協力し合う」「本気でとりくむ」などというキーワード出された。最後に「そういう気持ちを持ってたくさんのこと挑戦してほしい」と気持ちを伝え、スローガンを作成した。児童一人ひとりが自分の考えを話すこと意識の変化はあったと感じられる。

(資料1 12号)

エピソード2：

6月の学校生活目標は「きれいにそうじをしよう」であり、学級での具体的なとりくみについて学級会で話し合った。課題点として、始まりと終わりの時間が守れていないということがあげられ、結果として「時間内で隅々まで掃除ができるようてきぱき行う」と言う意見にまとまった。具体的な方法として、各そうじ場所のチェック表を作成し班長が記録していくという意見がでた。しかし、それに対して「時間内に終わらせようとして、手を抜いてしまうのではないか。」という反対意見も出された。「誰がチェック表を作成するのか。」「出来たらどうするのか。」など意見の交換がされ、最終的には各場所の始めと終わりの時間を設定し、班長が責任をもって時間の管理をしていくことでまとまった。また、それをミッショングとして掲示し、1週間全担当ができたら達成であるということになった。時間内に終わらせるためにてきぱきと掃除をしようとして、黙働清掃の意識にもつながった。

(資料4② 項目13)

成果と課題及び改善案：

- 自分たちで話し合って出した解決案であるため、行動に移そうとする意欲が高い。
- 発言する児童が固定化されていて、似た意見や反対意見などの深まりがない。
- 司会進行の経験が浅く、時間配分が悪かったり、時間が空いてしまったりして時間がかかっ

てしまう。

●課題に対しての解決策やめあてが抽象的なものが多く、確実に達成できたかどうかわかるような結果にまとまらないことが多い。

●学級会に臨む姿勢に差がある。学級の課題を自分自身の課題としてとらえている児童が少なく、受け身の状態である。

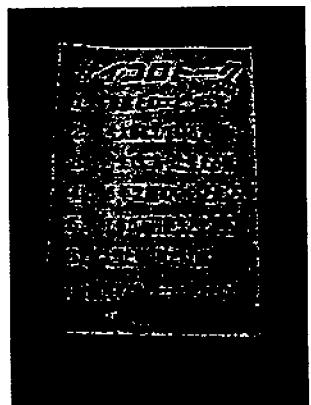
☆意見用紙はメモ用紙を活用したとても簡単なものであるので、議題の提案理由や改善したいことが明確になるような議題提案用紙を作成していく。

☆学級会を通して自分たちで問題解決をしていくことの意義や目的を、児童一人ひとりが納得して行えるようにする。

6 サイコロトーク

内容：

帰りの会で日直がスピーチをする。前日にサイコロを振って出た目に対応するテーマで行う。(資料6) 1周目は担任がトーキーテーマを決めた。2周目以降は児童からテーマを募集して決めた。(写真2)



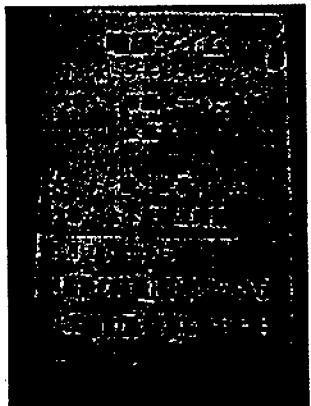
目的：

- ①普段積極的に発言できない児童にも人前で話をする機会を作る。
- ②友だちの話に耳を傾け、称賛する時間にする。
- ③話す能力を高めさせる。

エピソード：

学習の習熟度が低い文章作成が苦手だったり、自分の考えをうまく伝えることができなかったりする児童が、サイコロトークではスピーチの構成を工夫し、笑いをとるなどして称賛されていた。(資料6⑥)

写真



成果と課題及び改善点：

- きちんとスピーチの準備をさせることで、どの児童もスムーズにスピーチを行うことができた。
- 毎日のスピーチを楽しみにしている児童が多く、聞く態度がとてもよい。
- スピーチを聞いたあとは、自然と褒める言葉や拍手がある。

写真3

7 群読 暗誦

内容：

校内で使用している音読教材「進取の言葉」を活用し、朝読の時間やチャレンジタイムに学級で暗誦する。(写真3) 4月は本学級では『教室はまちがうところだ』の群読を行った。

(写真4) 朝の挨拶では教室の中央に体を向け、一人ずつ順番に挨拶をしていく。朝の会で『根郷小子ども宣言』を暗誦する。



目的：

- ①明るい雰囲気をつくるため。
- ②仲間意識を育てるため。
- ③大きな声を出すことの気持ちよさを味わわせるため。

成果(○)と課題(●)及び改善点(☆)：

○初めの頃よりも声を出す技術が向上している。

写真4

●一生懸命声を出す児童と、嫌々やっている児童で態度に差が出ている。

☆いつも同じようにやっているとモチベーションが下がってしまうので、他学級や他学年に見てもらったり、他の先生方に見てもらったりして刺激を与えていく。

3.これまでの実践を通して

これまで取り組んできた実践は主に教員が主体となって児童に与えてきたものが多い。それらは今後、児童が主体的に活動していくために必要な視点だったり、方向性を示すための材料となったりしている。めざす児童の姿①と②に関しては、これまでの実践を通して変化してきていると感じる。③の育成についてのとりくみとしては学級会がメインとなっているが、現段階では求めるレベルからは遠いものである。また、現在は教員対児童の関わりが多いが、主題に迫っていくためには児童対児童の関わりが多くなっていかなくてはいけない。

そこで、今後はこれまでの実践の成果や課題を土台とし、児童と児童が主体的に関わっていくことを通して③の育成をねらいとして指導していく。そのために、今後行われる行事を活用していきたい。夏休みが明けると修学旅行、学級対抗リレー、音楽群説発表会と大きな行事が続き、それが終わるといよいよ卒業式に向けての準備始まつてくる。学級のことから、学年のこと、学校全体に関わる行事を経験する中で実行委員を設けたり、グループ活動で班長を決めさせたりして、リーダーとして活動できる場を意図的に設けていく。また、児童が学級の課題を自分の課題として向き合えるようなより充実した学級会を通して、児童の力で課題を解決していく経験をさせたい。以上のことと踏まえ、以下のことを仮説とし研究に取り組んでいきたい。

4.研究仮説

仮説1：色々な行事を通してリーダー経験をすることで、児童は自らの成長に気付くと共に、支え合える集団となるだろう。

仮説2：児童同士で学級の課題を話し合う機会を数多く経験することで、互いに高め合える集団作りができるだろう。

資料編

1. 学級通信
2. 交換日記
3. 飯嶋ミッショント
4. 生活ふりかえりシート
5. 学級会
6. サイコロトーク内容

佐倉市立根郷小学校
6年2組学級通信
飯嶋 直人

平成30年度
4月5日
第1号

進級おめでとうございます

ほんわかと暖かい日が続き、すっかり春となりました。澄み渡る青い空も子供達の進級を祝っているようです。縁あって、この度6年2組の担任になりました、飯嶋直人です。本学年の子供達は3年の時に一度担任をしました、それから2年、身も心も大きく逞しく成長した子供達を再び担任することができ、本当にうれしく思います。子供達に負けない元気とパワーで一生懸命頑張ります。一年間、どうぞよろしくお願いします。

学校での出来事や子供達の様子を保護者の皆様にたくさん伝えたいという思いから、不定期となりますが、学級通信を発行することにしました。

学級通信のタイトルは「円☆陣」にしました。この一年間、つらいことやきついこと、苦しいことがたくさん待っていると思います。そんな時、一人で悩まないでみんなで円陣を組んで協力し乗り越えて行って欲しいという願いを込めて、このタイトルにしました。その先にはきっと素晴らしい思い出が残ることでしょう。

また、「えん」と読む漢字には「縁」や「接」があり、どちらもとても良い意味のある漢字です。6年2組として出会った縁を大切にして、互いに応援し合い、円陣を組んで乗り組んでいく、そんな学級になることを期待しています。

お問い合わせ及連絡

子供達や保護者の皆様の想いや想いをふまえて、学級経営や学級通信の作成をしていきたいと思っておりますので、可能な方は下記のアンケートにご協力いただけたらと思います。「こんな子供達になって欲しい」「こんな学級であって欲しい」という願いや、「学級通信でこんなことを取り上げて欲しい」という要望など、何かありましたらご記入の上、担任までご提出いただけたらと思います。

切り取り

【保護者の皆様へのアンケート】

お名前()

佐倉市立根郷小学校
6年2組学級通信
飯嶋 直人

平成30年度
4月26日
第10号



1年生を迎える会成功!

25日(水)に1年生を迎える会と縫割り活動がありました。1年生を迎える会では、児童会運営委員会の子供達が司会進行をしたり、始めや終わり、歓迎の言葉を述べたりしました。はきはきとした言葉や、堂々とした演技はさすが6年生と言ったところででした。2~6年生で歌った『桜の街』も口を大きく開け、上い表情で歌い1年生に届けようとする思いが伝わりました。

後半は、縫割り班に分かれての活動で、6年生が中心となって運営しました。この日を迎えるまでに、休み時間を割りながらも、プラカード作成や縫割り遊び計画の話し合いに時間を費やし、円陣を組んで頑張っていました。その努力の結果、他学年の子供達は楽しく活動することができ、各班の先生方からも「6年生がとてもよくやってくれました。」と褒めていただきました。とてもうれしかった瞬間でした。6年生にとっても成長につながる1日だったのではないでしょうか。



子供の感想より一部抜粋

初めての6年生としての縫割り活動で緊張したけど、友達と協力しながら進めることができて楽しかったです。

6年生としての役割を感じることができました。次はもっと楽しい活動にしたいです。

緊張したけど、他の学年が楽しんでいる姿を見てすごくうれしかったです。

今までの6年生が頑張っていたのを感じることができた。自分たちも根郷小のリーダーとして、学校のためにこれからも頑張っていきたい。

円☆陣

平成30年度
5月2日
第11号

5月が始まりました

あっと言う間に4月が終わり、5月に入りました。暑い日も続き夏が近づいてきたように思います。新年度が始まって早々に入学式があり、その後も1年生のお手伝いや委員会活動、縦割り活動など日々学校のために活躍しています。先日、校長先生の学級訪問があり、終わった後に「5年生の頃と比べ、ずいぶん成長しているね。最高学年としての自覚と責任があるのを感じたよ。」と私に話してくださいました。とてもうれしかったです。たった1ヶ月間でも、子供達はたくさんの経験をしてたくましく成長したのだと感じました。また、学級訪問の際に「寄れる力」について話をさせていただきました。「わかっている答えを求めたり、すでに発見されている事実を覚えたりするのではなく、新しい答え、考え方を見つけていく力がこれから大人になっていくのに必要である。」ということを学んだ貴重な時間でした。日記でも4月の生活について一人一人に振り返りを書かせました。それぞれできしたこと、できなかったこと振り返り、5月のめあてをもっています。

※日記より一部抜粋

最高学年になったので、まわりの人や先生方の目が変わってきています。全校集会でおっしゃっていた通り、学校のスタッフとして囲っている人がいたら助けてあげたいです。

6年生になって実際に活動をしてみるととても大変なんだと思いました。でも、たくさんの仕事を頼まれたり、色々なことができるのすごく楽しいです。

最高学年としての自覚がもってきたかなと思います。この一年間は自分の仕事をしっかりとやって、リーダーとして手本になれるように頑張りたいです。

これからも小学生最後の〇〇が続くので、今まで以上に頑張らないとと思いました。学級目標の「本気」をこれからも意識していくと思いました。

連絡&お願ひ

●明日(6/3)から、4連休になりますので、以下の点について、お子さんと確認してくださると、助かります。

- ・運動会に関しての、登校時刻変更(特に応援団)
- ・休み明けの持ち物(筆箱の中身・ハンカチちり紙など)
- ・生活に関する基本的な約束(遊びに行くときの約束)

●本日、集金袋を配布しました。集金日と金額をお間違えの無いよう、持たせてください。

平成30年度
5月7日
第12号

運動会練習が始まりました

本日より運動会練習が始まりました。子供達にとって、小学校生活最後の運動会となりますので、傷いが残らないよう全力で取り組んでほしいと思います。私としては、けがや事故がないよう安全に留意して指導していきますのでよろしくお願いします。

運動会に向け、4月からすでに係や紅白決めなど準備を始めてきました。その中で、応援団が決まりやすいために話し合いをしたり、選手宣誓に立候補する人がいなかつたりと積極性に欠ける部分がありました。そのため、運動会のスローガン決めの話し合いの始めに、私が「どんな運動会にしたいか。」と問い合わせ、子供達からは「後悔しない」「協力し合って」「紳を深めたい」「本気で取り組む。」などという言葉が出来ました。「そういう気持ちをもつと行動にして、色々なことに挑戦してほしい。」と私の想いを伝えました。その後の話し合いで、一人一人真剣に考えていました。2組のスローガンは、「

「風に乗り 勝利の道へ 駆け抜けろ」
に決まりました。今年の運動会のスローガンに選ばれなくても、学級のスローガンとして掲げ練習や本番に生かしていこうと思います。

全校集会にて

5月2日(水)に全校集会が行われ、その中で「根郷子ども宣言進取の誓い」を行いました。■さんがステージの上で児童代表として述べました。はきはきとしていて体育館に響く声でした。また、「ボランティアさんお願いしますの会」では、■さんが児童代表として、音楽を述べました。大変気持ちがこもっていてすばらしい読み方でした。二人とも色々な先生方から、お褒めの言葉をいただきました。以下、飯倉明紀さんのスピーチの内容です。

ボランティアのみなさん、今日は僕たちのためにご来校いただき、ありがとうございます。いつもぼく達根郷小学校の子供達を温かい日で見守って下さっていることに、感謝しています。雨の日も風の日も、登下校の見守りをしてくださったり、学校をきれいにしてくださったりするおかげで、僕たちは安全で楽しい学校生活を送ることができます。

日々、僕たちのために活動してくださっている中で、疲れてしまうときもあるかもしれません。体調を崩してしまうこともあるかもしれません。そんな時は、無理をせず、お体には十分気を付けてください。健康第一です。

僕たちは最高の笑顔で挨拶することで、感謝の気持ちを表したいと思います。僕たちがボランティアのみなさんの支えとなるように頑張ります。一年間よろしくお願いします。

児童代表、六年二組 ■



陸上部大活躍！！

5月15日（火）に行われた、「一部会陸上大会」にて、根郷小学校の陸上部はとてもよく頑張り、大変すばらしい結果を残しました。私は当日、決勝審判を行う役割でしたので、子供達がゴールするのを見ることができました。全力で駆け抜ける姿や頑つきを見て、本当に感動しました。

以下、参加メンバーのふり返りです。（一部抜粋）

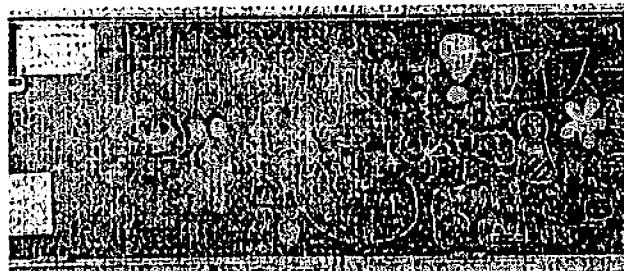
学校で出した記録よりも3cm高く届いて、自己ベストが出せたので良かったです。教えてくれた尾野先生や、いつも支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

一番の人だけでなく、最後の人も全力で取り組んでいる姿がとても印象に残りました。最後まで頑張っている姿が、思わず拍手してしまうほどかっこよかったです。

きれいな走り方をしている人や、腕を90度にして走っている人がたくさんいて参考にしたいと思いました。選手のみんなを精一杯応援させてくれたので良かったです。

他の学校の選手の足の速さが印象に残りました。大会に進んだみんなには本当に頑張ってほしいです。

また、残ったメンバーも一生懸命応援しながら、協力して学校生活を送っていたようです。下の写真は、学級の子どもたちが残したメッセージです。



相撲部大活躍！！

5月20日（日）に行われた、「第27回わんぱく相撲大会佐倉場所」にて、根郷小学校の相撲部は個人戦でベスト8まで進んだ選手がいたり、団体戦で3位に入賞したりとてもすばらしい結果を残しました。子供達の熱いぶつかり合いや、勝ったときに見せた笑顔を見ていて本当に感動しました。



個人戦は、少しあきらめてしまつたところもありましたが、団体戦で3位になれてよかったです。昼に食べたちゃんこ汁が、とてもおいしかったです。

初めてわんぱく相撲大会に出ました。個人戦は、1回負けたら終わりなので、油断は禁物という気持ちで本気でいました。結果は2勝1敗で声が出ないくらい悔しかったです。秋の大会でもっと良い結果を出すために、一緒に懸命練習します。

＜表彰式の様子＞

朝早くから、息を切らしながら走る陸上部、全力で体をぶつける相撲部、学校にきれいな歌声を響かせる合唱部、毎日たくさんの子供達が頑張っています、児童の成長につながっていること間違いありません。そんな子供達のために、私は出来る限り支えていきます。

運動会もまもなくとなりました。暑い中、毎日の練習で子供達も疲れがたまっているかと思います。ケガや体調を崩すことがないよう、無理はせず練習に取り組んでほしいと思います。また、十分な睡眠と食事など健康のためにさらなる支援をよろしくお願ひいたします。

円★陣

平成30年度
6月7日
第22号

6月の全校集会にて

6月5日(火)に6月の全校集会が行われ、6年2組の代表児童が活躍しました。



応援団長による、運動会の総括がありました。応援団長としての熱い想いや、全校児童への感謝の気持ちを堂々と述べることができました。最後には団長としての最後のエールを送り、全校児童から囲かい拍手が送られました。

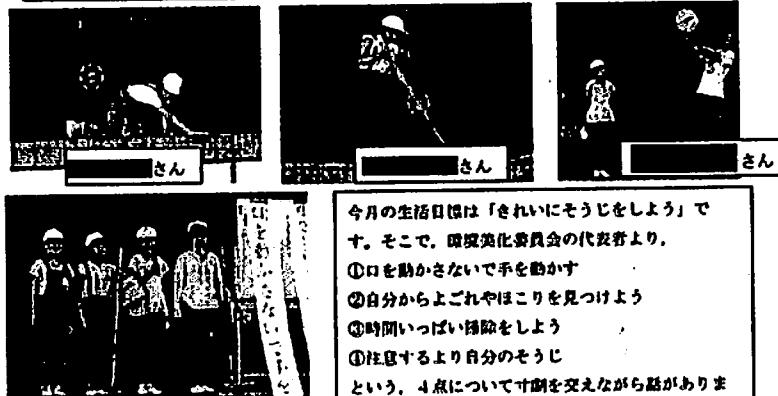
ぼくは1年生の時から応援団員になりたいと思っていました。大声で応援している姿がかっこよかったからです。4・5年生で応援団をやり、大きな声が出せるようになりました。応援団長のオーディションでは、みんな大きな声が出ていたので心配でしたが、なれどうれしかったです。

運動会練習が始まりました。今年は新しい応援を作りましたが、4・5年生がたくさん考えててくれました。どれもいい応援だったので、不安が一気になくなりました。

運動会の当日になりました。午前の応援合戦では紅が勝ちました。各学年の種目が始まり、みんな全力を出して応援しました。午後の団のダンスも大ウケで嬉しかったです。

閉会式で総合優勝が発表されたとき、すごくうれしかったです。みんなにおめでとうと言われました。
紅組のみなさんありがとうございました。

紅組団長 [REDACTED]



今月の生活目標は「きれいにそうじをしよう」です。そこで、環境美化委員会の代表者より、

- ①口を動かさないで手を動かす
- ②自分からよごれやほこりを見つけよう
- ③時間いっぱい掃除をしよう
- ④住居するより自分のそうじ

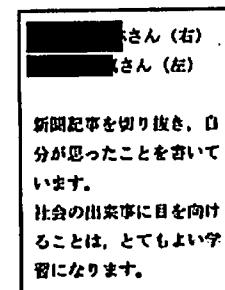
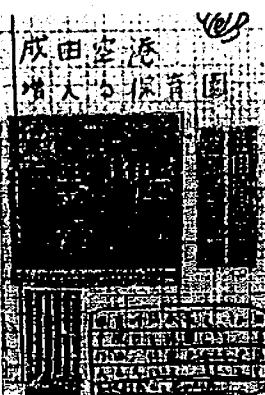
という、4点について寸断を交えながら話がありました。全校のみんなにしっかり伝えようと、一生懸命話していました。

円★陣

平成30年度
6月27日
第27号

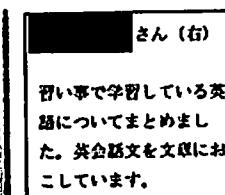
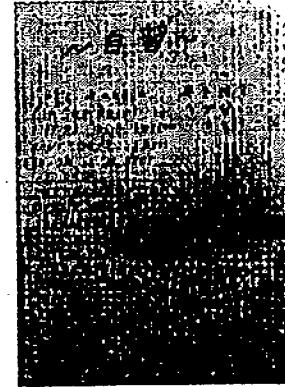
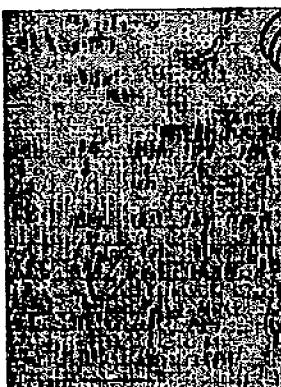
個性溢れる自学ノート

週末の宿題にしている自学。子ども達はそれぞれ工夫して、取り組んでいます。個人的に良いと思ったものを随時紹介します

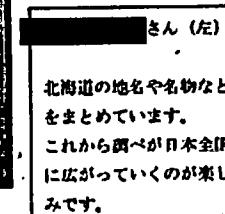


新聞記事を切り抜き、自分が思ったことを書いています。

社会の出来事に目を向けることは、とてもよい学習になります。



習い事で学習している英語についてまとめました。英会話を文庫におこしています。



北海道の地名や名物などをまとめています。これから調べが日本全国に広がっていくのが楽しみです。

オリジナル枕草子作成中！

現在、国語科では「随筆を味わおう 春はあけぼの」の学習をしています。作品を読んで、隨筆の特徴を知り、表現を味わっています。そして、最後は「オリジナルの枕草子を作ろう」というめあてで取り組んでいます。

先日、それぞれが書いた作品を友達同士で読み、アドバイスし合いました。一人一人が友達の良いところを見つけ、さらに良くなるような助言をすることもできていました。清書が楽しみです。

また、話し合いの時間は昆野先生が授業をしました。音読の声の出し方や、話し合いの仕方について褒めてもらい、子ども達もいつもより張り切って学習に臨んでいたように思います。



指導室訪問がありました

7月12日(木)、指導室訪問があり、本学級では防災教育をしました。近頃は西日本の豪雨が連日ニュースで報道されていたり、先日は千葉東方沖で震度5弱の地震があったりと、災害が遠いものではないように感じています。また、30年以内に千葉にとても大きな地震が来るとも言われています。

そこで、「いざという時のためにどのような心掛けや備えが必要だろうか。」ということを課題とし、個人で考え、グループで話し合い、全体で共有するという活動を行いました。

子ども達は自分たちが出来ることを一生懸命考えていました。

以下、ふり返りの文章です。(一部抜粋)

自分のことを守るのは当たり前だけど、周りのことにも気を配ることが大切だと思いました。
本当の地震が起きた時に備えて、京族との集合場所などを確認したいです。

いつ、どこで、災害があるかわからないから、日頃の避難訓練や大きな返事をすることなどから意識して取り組んでいきたいです。また、小さい子を助けることも頼りたいです。

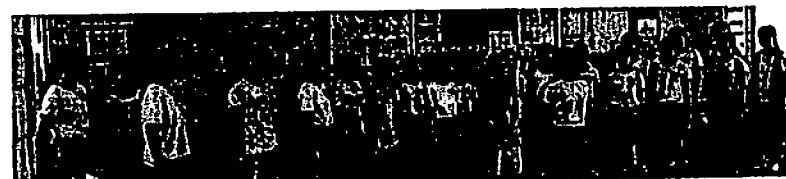
災害が起きてから色々するのではなく、日頃の生活から災害のことを意識して過ごすことが大事だと思いました。災害が起きた時は、周りをよく見て行動します。

土曜日の地震や、先日の夜の大雨、雷のことを含めて、災害は改めて怖いと実感しました。災害のことを頭に入れておいて、食料などの用意をして災害に備えたいです。

災害が常に身近にあることを意識することや、周りの人に気を配ることが大切だとわかりました。
最高学年として、地震などが起きた際には託学年を助けたいです。

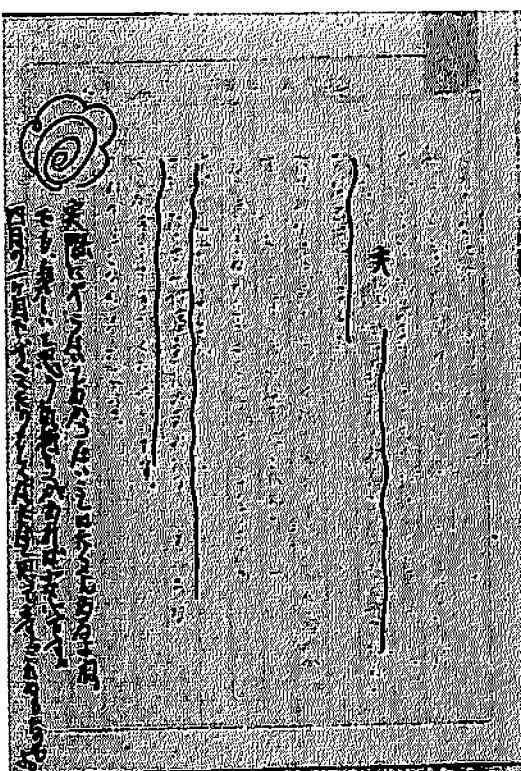
また、災害が起きた時の約束を家族と話し合いたいという意見や、緊急防災グッズの確認をしたいという意見が多くありました。良い機会ですので、一度防災について話し合ってみてはいかがでしょうか。

】7月10日(火)に歌声交換会がありました。6年2組の優しい歌声が響いていました。

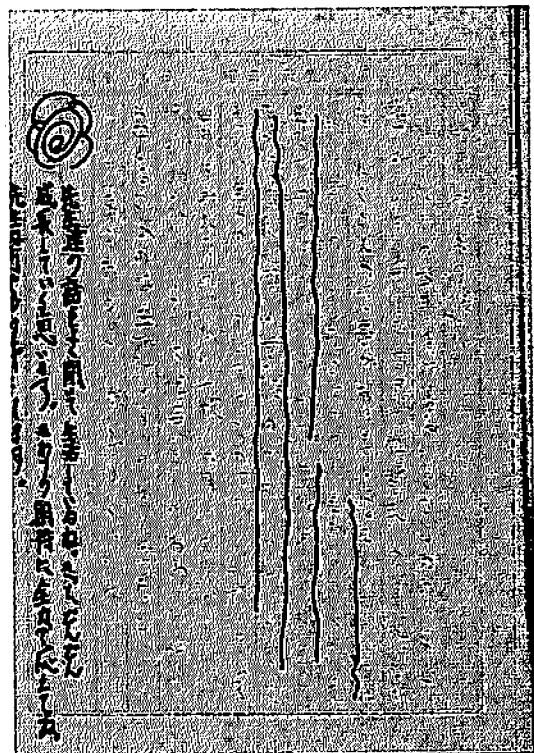


資料2 交換日記

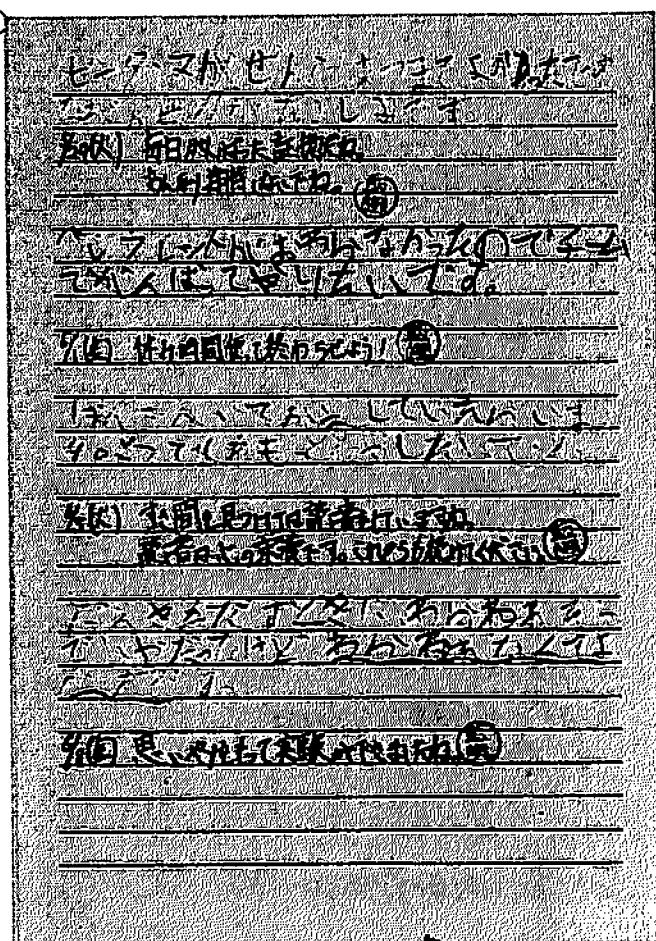
①



②

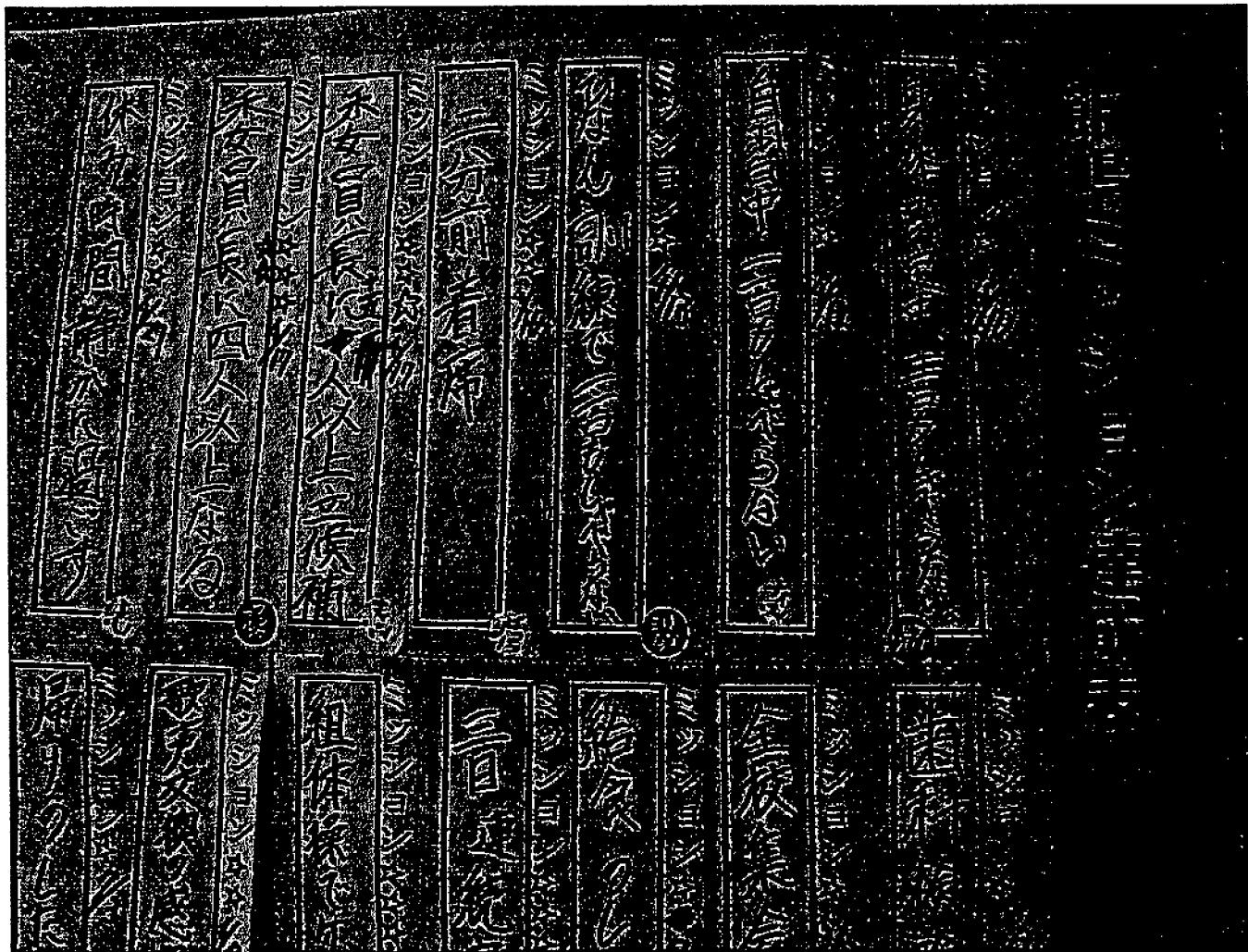


③



資料3 飯嶋ミッショントリニティ

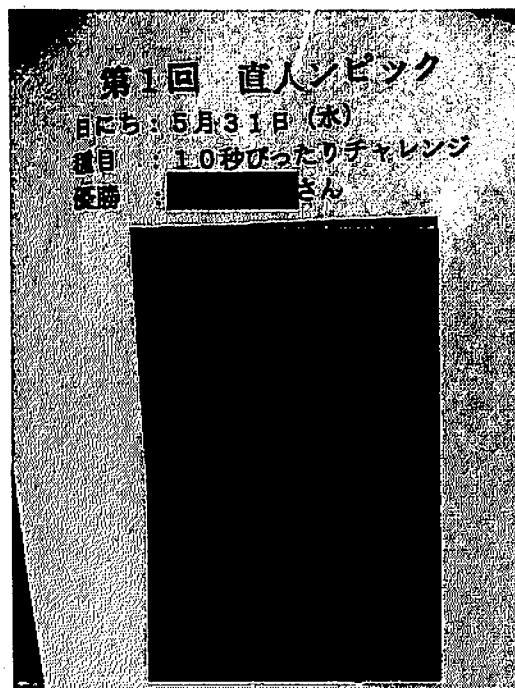
①達成ミッションの掲示



②ビー玉貯金



③「直人ンピック」結果発表



①原本

生活ふり返りシート

組 番 名前

よく当てはまる→4 当てはまる→3
あまり当てはまらない→2 まったく当てはまらない→1

	内容	評価
1	朝の読書3分前には本を準備し、座ろうとしている。	
2	次の時間の準備をしてから休み時間を過ごしている。	
3	1分前の着席をしている。	
4	授業中は、「覚えよう」「できるようになろう」と思っている。	
5	授業中は、手を挙げて参加している。	
6	授業中は、おしゃべりをしていない。	
7	ノートを丁寧にとっている。	
8	担任が出張時や担任以外の先生の授業でもしっかりした態度をとっている。	
9	すれちがう先生、保護者、お客様に挨拶をしている。	
10	靴箱の入れ方やロッカーの整頓を意識している。	
11	友達をけつたり、たたいたりしていない。	
12	友達の嫌がること、悪口を言っていない。やっていない。	
13	そうじは黙って行っている。	
14	教室の移動はしゃべらず静かに右側通行をしている。	
15	うそをついていない。ごまかしたりせず、自分の都合の悪いことも正直に言っている。	
16	廊下は走っていない。	
17	友達の注意を正直に聞いている。	
18	進んで学級の手伝いをしている。	
19	歌をしっかり歌っている。	
20	男女問わず普通に接している。	
21	誰にでも優しく接している。差別をしていない。	
22	係、当番、委員会の活動は責任をもって取り組んでいる。	
23	返事、挨拶、反応、手伝いなど、人任せにしていない。	
24	指導されたら、自分のあやまちを素直に認め、反省している。	
25	一度注意をされたら、反省し、正しいことをしようとする意識がある。	
計		合計点

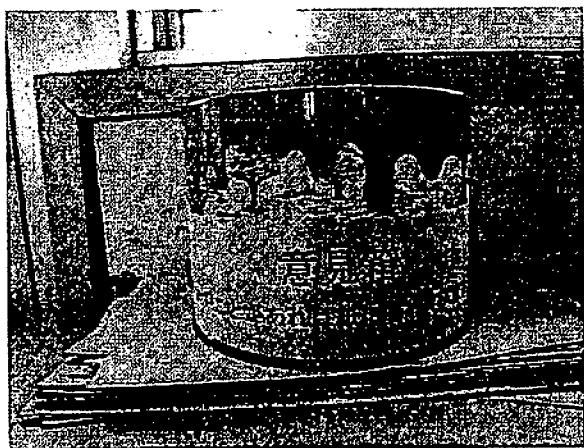
◎4月の生活でよくできたことを書きましょう。

◎5月に頑張りたいことを書きましょう。

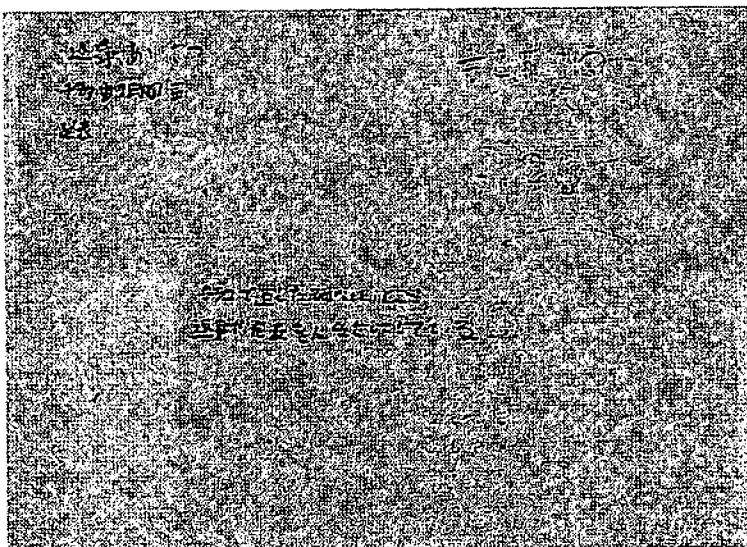
番号	項目	4月 平均	5月 平均	6月 平均	7月 平均
1	朝の読書3分前には本を準備し、座ろうとしている。	3.62	3.45	↓ 3.55	↑ 3.50 ↓
2	次の時間の準備をしてから休み時間を過ごしている。	3.66	3.59	↓ 3.59	= 3.57 ↓
3	1分前の着席をしている。	3.52	3.52	= 3.45	↓ 3.50 ↑
4	授業中は、「覚えよう」「できるようになろう」と思っている。	3.62	3.66	↑ 3.59	↓ 3.64 ↑
5	授業中は、手を挙げて参加している。	3.03	2.90	↓ 2.93	↑ 3.00 ↓
6	授業中は、おしゃべりをしていない。	3.45	3.45	= 3.31	↓ 3.54 ↑
7	ノートを丁寧にとっている。	3.34	3.21	↓ 3.34	↑ 3.36 ↑
8	担任が出張時や担任以外の先生の授業でもしっかりした態度をとっている。	3.79	3.76	↓ 3.69	↓ 3.75 ↑
9	すれちがう先生、保護者、お客様に挨拶をしている。	3.52	3.69	↑ 3.45	↓ 3.68 ↑
10	靴箱の入れ方やロッカーの整頓を意識している。	3.62	3.61	↓ 3.59	↓ 3.68 ↑
11	友達をけつたり、たたいたりしていない。	3.76	3.76	= 3.79	↑ 3.75 ↓
12	友達の嫌がること、悪口を言っていない。やっていない。	3.83	3.72	↓ 3.21	↓ 3.71 ↑
13	そうじは黙って行っている。	3.72	3.52	↓ 3.59	↑ 3.64 ↑
14	教室の移動はしゃべらず静かに右側通行をしている。	3.55	3.59	↑ 3.38	↓ 3.43 ↑
15	うそをついていない。ごまかしたりせず、自分の都合の悪いことも正直に言っている。	3.59	3.69	↑ 3.62	↓ 3.68 ↑
16	廊下は走っていない。	3.72	3.62	↓ 3.72	↑ 3.57 ↓
17	友達の注意を正直に聞いている。	3.79	3.76	↓ 3.79	↑ 3.86 ↑
18	進んで学級の手伝いをしている。	3.21	3.31	↑ 3.34	↑ 3.29 ↓
19	歌をしっかり歌っている。	3.31	3.41	↑ 3.24	↓ 3.43 ↑
20	男女問わず普通に接している。	3.52	3.52	= 3.55	↑ 3.54 ↓
21	誰にでも優しく接している。差別をしていない。	3.83	3.79	↓ 3.72	↓ 3.75 ↑
22	係、当番、委員会の活動は責任をもって取り組んでいる。	3.76	3.86	↑ 3.69	↓ 3.71 ↑
23	返事、挨拶、反応、手伝いなど、人任せにしていない。	3.24	3.41	↑ 3.52	↑ 3.36 ↓
24	指導されたら、自分のあやまちを素直に認め、反省している。	3.72	3.69	↓ 3.76	↑ 3.75 ↓
25	一度注意をされたら、反省し、正しいことをしようとする意識がある。	3.72	3.76	↑ 3.69	↓ 3.89 ↑
	合計	89.45	89.23	↓ 88.10	↓ 89.57 ↑

資料5 学級会 意見箱&学級会ノート

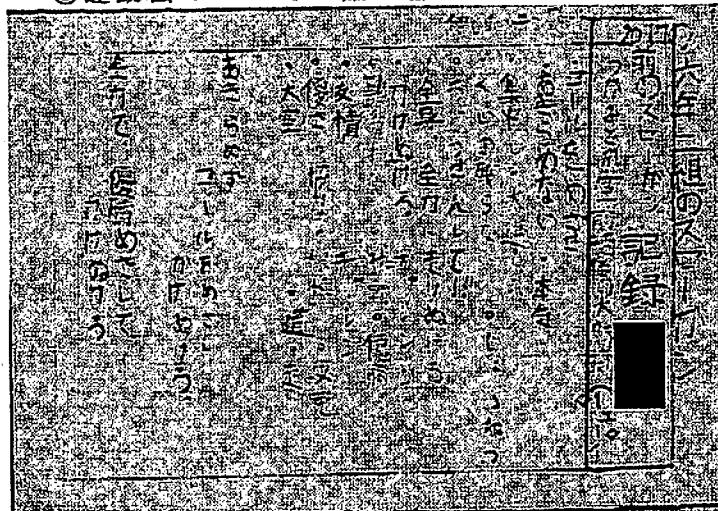
①意見箱



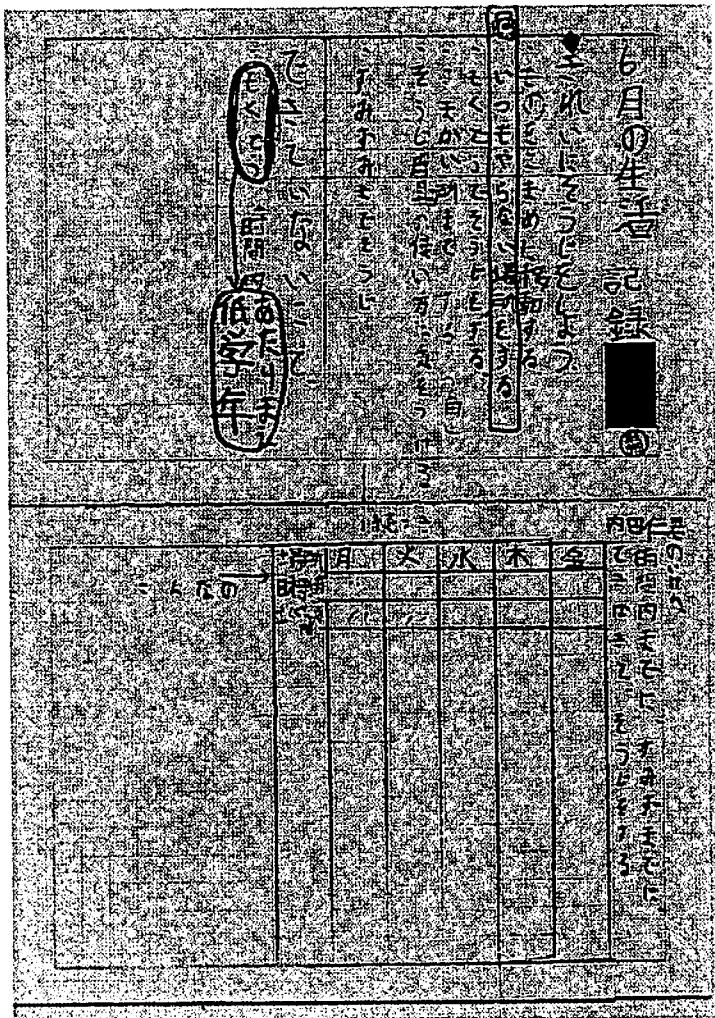
②意見用紙



③運動会のについての話し合い



④生活目標についての話し合い



資料6 サイコロトーク内容

①

自分をほめてあげたいこと
私が自分をほめしわけないことは、宿題を
はやく終りさせられるようにしてるってです。
ふつうの人から聞けば后に前へ罪がもしされ
よせんが私にとって、今はとても大きくなって
いた。
私は集中できないんだからいつも泣き声
ながら宿題をやっているのに宿題未終わる
時間がいつも泣くなってしまい家族がめんど
わくをかけてしまっています。
でもたまに泣かせずに集中して宿題をほ
やく終りさせられるようにしています。
とうすれば私も家族にわくをからずには
いでられしまします。
けれどもはななか集中できないうれしくて
とても大変なことであって長く続ければ
とができません。
ながでこれかうは宿題をはやく終らせる
が長く続く上に、がんばりたいです。

279 ページ 2820

②

わすれられない事
ほのかなことをほつがあり、一つ目は去年初め
でやめた、五年生が行なうて薬の動いて
そのとくに一回だけなめて室
取り組んで使う景品を担当しましたが大き
変でした。初歩的な割りをしきら側に
なりました。やと本と小が年しが
最後は達成感ややれました。内が在
小児病院へおもへました。
二つ目は先年の小四年生が会えて去年
は歌う位の先頭でサビの部分でゼリ
フをう役でした。大人の声で言ひ、つぶさにしたが
思いました。歌詞でして六年生に伝えておこな
うれば、「して」と「ほく」の間に
れ、「今」、「大」、「二」、「の」と「が」、「ほく」の間に
とができません。

279 ページ 2820

志此
於
元

五年の時六年五月送り会下僕は・五十九の

六年生を送り会当日、朝から早く起

送る会で発表する紙も汗でフニャフニヤにな
り、ドキドキバタまりました。

最後にひやりの言葉を言う時、僕はまだド
キドキがとまらないから、たけり、みんなに大
きな声で聞こえなくして発表しました。みんな
張れにけど、がんばって良いにほりと思いま
した。友達にもほめられたりしゃべりたて
す。

がりがえのない存在

この話が竟てまた五年生のころの話しだす
下校の時母がいつも上りおそくなぬのでかず

くれて弟と六年生と一緒に氣
づいた。四年生も探してくれて一時帰った。
毛見つたらまだ状態で、六年生の家族も同じ
しとこ探しでくれても見つからなくて末
がうめかけた。その時六年生の人を見つけて
くれてぶりにたすけられました。そのときの
時間は六時でした。

「おやのへんとくじに不穏ひもて
アホニセハ一時難いとれなくておひでし
ました。」
そのとき彼の体の出ででけぐらは王室が
くてすぐだけどこの出来事がきてたにしてる
のと、お木でじゅくじにが指せんねたこと
ばスを、もううにしたう先生にひめておこひ不
たけじまたほくのをねをしちふとあるく
あらわれては、のむじうして見えて
た人うなをとしてじゅくじに小品の入れて
おこらえこしまして、おれは一年生だよ」と、
じのあらまくそ陽の先生が、この間の「小品」
「ハーモニ」ました。
その二、三年生には、「だくぐん」まだナラ
にのどじ、くじに小品入れてセドハコト
だと西ハシ入れたが、ハケキガ落したので、
それを元々くじに小品とえなくまた仕へてし
まい生た先生に、「うねてしきハナ」うじ
の、「セドハジドト」おも入ねたやうじ思ハ